

「情報を生かす産業」 ～情報はコロナから人を助ける？助けない？～

1. 学年・組 5年南組 33名

2. 目指す子供の姿

社会の中で実際に問題になっている事象に対して向き合い、自分なりに根拠を持って解決しようとする子供

3. 本時における「子供とつくる学び」

子供と学びをつくるための本単元の課題は2つあると考える。

1つ目は、学習課題を自分事として考えることである。学年当初、知識が豊富な子供は多いが、学習内容が自分の実生活とどのように結びついているかまで深く考える子供は多くない現状があった。そこで、一年間子供の实生活との結びつきを意識し、学習を進めてきた。自分自身で問いをつくり、学習に向き合う場面をこの単元でも多く設けたい。

2つ目は、実社会で起こっているまだ解決していない問題事象について自分なりの答えを導き出すことである。めまぐるしく進む実社会において、まだ解決策がない事象も多く存在する。事象を多面的に捉え、そろえた根拠を基に、「今自分なりにできることは何か」、あるいは「今の自分にはできないけど、社会としてこのようになっていけばいいのではないか」というように、自分なりに課題に対する答えを導き出すことは、将来社会に参画する子供たちにとって必要な力だと言える。

4. 「子供とつくる学び」を実現するための手立て

子供とつくる学びを実現するための手立てとして、3つの手立てを講じる。

①思考ツールの活用

事前に調べたテーマに対する情報を、バタフライチャートにまとめる。バタフライチャートにまとめることによって、トピックについての良い面・悪い面の両面から物事を捉えることを促す。良い面・悪い面の両方を視野に入れることで、さらに深くトピックのもつ多面性に迫らせたい。

②名前カードを使った情意の可視化

今の時点で自分が事象に対してどのような考えを持っているか可視化することによって、学習の中での考えの深まりや変容を実感できるようにする。

③効果的な資料の提示

情報産業が発達していることで良い点・悪い点に分かる資料を準備し、効果的なタイミングで提示することによって子供に揺さぶりをかけ、問題になっている事象に対する自分なりの納得解を考えるようにする。どちらかに考えが偏った場合や、学習が収束していかない場合など、臨機応変に提示していきたい。

3つの手立てを講じることで、学習を「自分事」とし、全員が学習に参加することができる授業をつくっていきたい。

5. 教材について

本単元は、わたしたちの暮らしを支える産業に情報通信技術がどのように活用されているかについて考える単元である。

近年情報通信技術は発達し、さまざまな場面で情報通信技術が活用されている。情報通信技術が暮らしの中で活用されていることはなんとなく感じられるものの、具体的にどのように活用されているか、そのことによってわたしたちの暮らしや産業にどのような変化が起こったかなど、情報の本質の部分はなかなか捉えにくい。そのため、学習内容が子供にとってより身近で、より自分事として捉えられるものである必要がある。そこで単元の中心となるのは、据えたのがコロナ禍における情報産業の在り方がふさわしい。

情報通信技術の発達により、新型コロナウイルス感染者や接触者を追跡して探し出すことが可能となっている。この追跡システムにより、感染拡大対策ができる一方で、諸外国で問題になっているような「デジタル監視」といった状態にもなりうる危険性もある。現在進行形で起こっている事象だからこそ、自分事として捉え、「問い」を持ったり、「問いに対する自分の納得解」を導き出したりすることと結びつけやすい教材である。

6. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
わたしたちの暮らしを支える産業の中で、どのように情報が活用されているか調べ、理解している。	情報通信技術の活用によって、わたしたちの暮らしを支える産業にどのような変化が起きているか考えている。	情報通信技術の活用の在り方について、学習を自分事として捉え、自分なりの根拠を持ってこの問題の納得解を導き出そうとしている。

7. 単元計画

次	時	内容
1	1	暮らしを支える産業での情報の生かし方について話し合い、学習課題をつくる。
2	2	情報をどのように活用して販売の仕事をしているか調べる。
	3	販売の仕事では情報をどのように活用して商品を運んでいるか調べる。
	4	販売の仕事では情報通信技術を活用し、どのようにサービスを広げているか調べる。
3	5	今までの学習を活用し、コロナ禍における情報通信技術を活用したサービスの在り方について考える。★本時

資料の出典

新型コロナ感染：接触追跡アプリに潜む意外なハードル(平和博)

膨張する中国「個人信用情報管理」 nec wisdom ビジネス・テクノロジーの最先端情報メディア

韓国の追跡アプリ 令和2年4月15日産経新聞の記事

コロナ接触 わかるかも...確認アプリ「COCOA」読売新聞オンライン_

8. 本時の目標

情報通信技術の活用の在り方について、学習を自分事として捉え、自分なりの根拠を持って問題の納得解を導き出そうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

9. 本時の展開

